

4月に開催された日本最大のフラワーデザインコンテスト「JFTDジャパンカップ」で前人未達の8度目の優勝（内閣総理大臣賞）を飾ったフローリストの日坂さんにお話を伺いました。

加古川の人たち みんなを花好きにしたい

今年は二人の息子とともにコンテスト出場

お花のアレンジを作る時には、そのデザインの中に季節感が見えて、そのお花本来の良さを見せられるよう心がけています。

コンテストはアレンジだけではなく、フローリストとしての姿勢も採点されています。花や道具の扱い方、ゴミの片づけ方まで見られています。過去には作業台にタオルを置き忘れて減点に

なり、苦い経験をした事もあります。花の見栄えだけ気にするようでは「真のフローリスト」ではない、ということとです。

若い頃は、賞を取らなければという緊張感の中で大会に臨んでいました。今は賞よりも自分の力が最大限、発揮できる場に立てることの幸せを感じています。

花のコンテストは私にとってチャレンジの場です。毎年の新しい作品がどのように評価されるかとても楽しみですし誰も想像した事のない世界観を、一年に一度発表できる場所。そしてその花のデザインや新しい使い方が流行になったりと、人の考えを動かす作品、心に残る作品ができた時の達成感は何事にも変えられません。

今年も二人の息子もコンテストに参加し準優勝・セミファイナリストとなり、今後の自信と成長に繋がる結果となりました。直伝の特訓なんてしていませんよ（笑）本番は一瞬で考え、一瞬のひらめきを形にする、非常にプレッシャーのかかる場です。日頃の取り組みが結果として出てきますのでこれからも研鑽を続けてほしいと思います。

男性にも花を身近に

お店づくりもお花のデザインと同じで、置く場所や器によって見え方が違うので、お店の仕器なども手作りし、

他のお店には無いオリジナルの雰囲気が出せるように心がけています。

新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、自宅で気軽に育てられる観葉植物が注目されるようになりました。それをきっかけに男性も観葉植物やお花に目を向けるようになりました。受講生の大半が女性だったフラワースクールも最近では男性も通ってこられるようになってきています。もっと男性もお花を見に気軽にお店に入ってもらえれば嬉しいです。今は観葉植物の土の代わりに育てやすいセラミック素材に植えた鉢もあり、衛生的で水やりも楽です。で男性の方が育てるのにオススメです。

花で気持ちを伝えて

お花は人の気持ちを伝える最高の贈り物です。喜び・悲しみ・お礼や記念日のお祝い……。人生の節目や日常でも、花でないと伝わらない、花だからこそもっと伝える事ができます。もっともっとお花の魅力を知ってもらうために模索していきたいと思っています。

加古川の人たちみんなを花好きにして、花が溢れる街にしたい。ブロッサムをこれからも地域に愛され、必要とされる店であり続けられるよう、今後も精進を続けます。新しいデザインにも挑戦しながらお客様が喜んでいただける「花たち」を今後も提供してまいります。



(有)ブロッサム

代表取締役 ひさか 日坂 あきひろ 明広 さん